

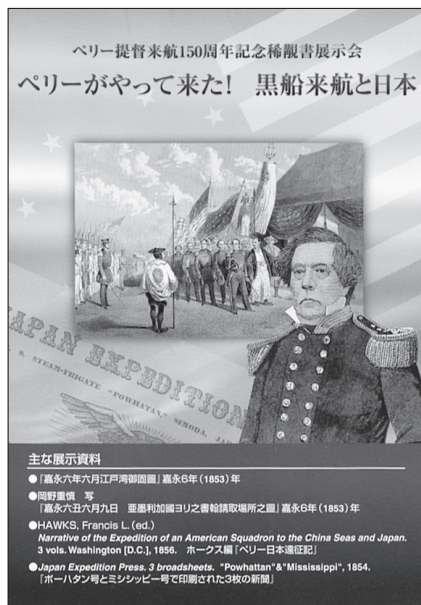
案内絵ハガキから見た貴重書展示会のイメージ（13）

「ペリー提督来航 150 周年記念稀観書展示会：
ペリーがやって来た！ 黒船来航と日本」
杉山 ゆうか



みなさん、こんにちは。大学生活いかがお過ごしでしょうか？図書館も大いに利用してくださいね。図書館には入口付近に絵ハガキが展示されているのですが、みなさんをご存知ですか？この絵ハガキは今までに行われた貴重書展示会の案内絵ハガキです。さて、わたしは今回、その中から「ペリーがやって来た！黒船来航と日本」について少しご紹介させていただきたいと思います。

ペリーという名前はみなさんご存知なのではないでしょうか？江戸時代に黒船の艦隊を率いてやって来て、鎖国していた日本を開国させた人物ですね。ペリーは2度の来航で、日米和親条約を締結させます。帰国後、ペリーは『日本遠征記』の監修に取り掛かるのですが、この展示会では本書を見ることが出来ます。本書について紹介しますと、この『日本遠征記』は全3巻から成る貴重書で、牧師のフランシス・ホークスが編纂し、ペリーが監修にあたった公式報告書です。第1巻は、ペリーの日記を中心にした浦賀までの航海記で、約10年前にイギリスの租借地になっていた香港や広東、マカオ、上海、琉球などの記述が挿絵と共に入れられています。第2巻には、随行員マローによる琉球の地形と農業をはじめ、グリーンによる日本と中国の農業、ジョーンズによる函館付近の鉱産資源、ボイルによる北海道誌、アボットによる日本列島や琉球の観察と通商予測などがあり、日米和親条約の締結文や世界図や中国、琉球、江



戸・下田、北海道などの地図が添付されています。第3巻は、ジョーンズによって天体観測の結果が掲載されています。

ペリーは日本遠征の際に、ヨーロッパで刊行されていた日本についての図書から広く情報収集するなど用意周到であったそうです。日本についての知識を深め、開国という大きなことを成し遂げた彼の眼に映る日本がどのようなものであったのか興味湧いてきませんか？

気になった方は図書館ホームページの「デジタル展示会」へ。過去の展示会記録なども見ることが出来ますので、是非ご覧ください。

すぎやま ゆうか（日本語学科4年次生）